



No.14

株式会社 智堂技建

設計室リーダー

若生 寛和

第6期生

鶴岡市に本社を構え、建築工事と基礎・左官工事を中心に、建物一棟分の建設を総合的にプロデュースする智堂技建。そこで設計室リーダーとして活躍する6期生、若生寛和さん取材した。

「水」のような会社

どんな環境にも入り込むことができ、どんな形にも柔軟に変化できる「水」。若生さんは智堂技建をこう表現する。働き方改革が比較的遅れているとされる建設業界にあって、智堂技建では従業員個々のライフスタイルに合わせた様々な働き方を尊重している。特に若生さんにおいては、ほぼ出社せずに在宅で業務をこなす。お客さまとの打ち合わせや現場に用事があっても自宅から直接赴く。他にも、他社で職業人生を全うした65歳以上の職人を2名正社員雇用しており、関東圏からの移住者まで雇用している。また、建設業という枠にすら囚われず、地域貢献活動や地域活性化イベント等にも積極的に参画するなど、環境に合わせて形を変化させていく「水」のような会社。一方で、智堂技建には世の中が移っても変わることはない明確なビジョンがある。

世の為、人の為、地域の為、誰かの笑顔の為に誰かが何かを求めているなら全力でやる。お客さまが思い描いているものを形にする。しかもそれを仲間(従業員)全員の幸せも実現した上で達成する。これが社長の思い描くビジョンだ。崇高な理念は人を集める。智堂技建は、人手不足が深刻な現代にあつてここ数年、毎月のように新規採用を行っている。「仕事を処理する為の従業員が欲しいのではなく、ビジョンを達成するための『仲間』が欲しい。」そんな言葉を発する社長の下には、若生さんをはじめとした様々な「人財」が集う。

One's right hand

そんな会社の中で若生さんの業務は多岐に渡っている。設計、積算に加え、打ち合わせなどお客さまとの窓口業務、会社のイメージ動画作成やSNS発信、システム周りの仕組み作りから、採用まで行っている。「広い仕事を行っていますが、社長のビジョンを達成するための道筋づくりが自分の仕事だと思っています。若生さんは自身の仕事をこう表現する。また、「社長のビジョンを実現するためにその考えを深く理解する必要があります。理解した上で、社長の独り言まで全て拾って形にしていきたい」と考えています。「そんな想いもあり、いつしか社長の語るビジョンと、若生さんの語る言葉がリンクしていた。社長と同じ信念を抱き、それを達成する道筋を描く存在。正に理想の右腕である。」

チャレンジを生み出すための仕組み

智堂技建のものづくりは、完成形をお客さまの生活スタイルから逆算する難易度の高いものだ。そういった意味で、打ち合わせを最終線で行う若生さんの役割が非常に重要だ。予算を考慮した上で理想の暮らしを実現するため、見積もりを10回以上出し直すこともあるという。非効率を厭わずにお客さまの希望に全力で寄り添う。実現するためには日々の効率化が不可欠だ。国土省が推奨するBIM(3次元情報を活用した次世代設計システム)の導入をはじめとしたITの活用、現場調査を効率化するシートの活用など、自分や社長、従業員が新しいことにチャレンジする時間を生み出す。社内での生産性向上にまつわることも若生さんの重要な仕事のひとつである。

若手経営者塾で得た学び

若生さんが若手経営者塾で得た学びの中で印象に残っているのは、平尾塾長の講義にあつた、「暗黙知と形式知」という話だ。「暗黙知」とは個人の経験や勘に基づいた知識で、「形式知」とは反対に言葉やマニュアル、数式などで客観視できる知識だ。職人の勘や経験に頼ってきた建設業界は特に「暗黙知」の領域が多い。それが非効率を生み出している側面があり、「形式知」化していくことが望ましい。一方で、その職人固有の磨き抜かれた「暗黙知」は個性でもあり、他社との差別化要因にもなり得る。「暗黙知」と形式知をバランスよくミックスしていくことが重要であり、最も難しいポイントだという気付きがありました。「若手経営者塾の講義の中には、個性豊かな講師陣のハイレベルな「暗黙知」が散りばめられている。それを如何にして自社に落とし込み「形式知」とするか。という観点も若手経営者塾の「面白さ」のひとつである。」

若生さんは7月から宮城県との二拠点生活を開始した。近々結婚を考えている宮城県在住の女性との時間を大切にすためだ。月火水は庄内を過ごし、打ち合わせや現場での仕事を集中的に行う。それを仙台に持つとき、残りの曜日で形にする算段だ。多様な働き方を尊重する智堂技建にいるからこそ成せることであり、常にチャレンジできる環境を与えられている若生さんだからこそ実現出来ることでもある。

そして、この生活にはもう一つ目的がある。若生さん持ち前のバイタリティーで、宮城県でのコネクションを醸成し、智堂技建の商圏を広げていくことだ。業種、働き方、エリアにも縛られず、水のように変化していく智堂技建と、それを支える若生さんの活躍から今後目が離せない。

